グローバル化された市場経済での格差・諸課題への提言

令和４年度における活動実績・成果の概要

- 2022年度は5回のランチョン・ミーティングと5回の社会的不平等に関するオンライン国際講演シリーズを開催し、本プロジェクトを推進した。

- オンライン・ランチョン・ミーティングは国内の第一線で活動する研究者に最先端の研究成果を報告してもらい、本プロジェクト・メンバーと議論を重ねることを目的とした。具体的には次の講演者に報告してもらった。
  - 2022年10月27日　神林龍（一橋大学）
  - 2022年11月15日　加藤晋（東京大学）
  - 2022年12月2日　森悠子（津田塾大学）
  - 2023年1月10日　工藤尚悟（国際教養大学）
  - 2023年2月15日　玄田有史（東京大学）

グローバル化された市場経済での格差・諸課題への提言

令和４年度における活動実績・成果の概要

- 社会的不平等に関するオンライン国際講演シリーズは各回、国内外で活躍する研究者2名に講演してもらって社会的不平等をめぐる諸問題を多角的に検討することを目的とした。一般公開したので日本全国から参加者が集まり、本プロジェクトのプレゼンスを高めることにも貢献した。具体的には次の講演者に報告してもらった。
  - 2022年10月20日　Hilary Holbrow (Indiana University Bloomington)
永吉希久子（東京大学）
  - 2022年11月10日　Mary C. Brinton (Harvard University)
Hyunjoon Park (University of Pennsylvania)
  - 2022年12月9日　Sarah Valdez (Linköping University)
村上あかね（桃山学院大学）
  - 2023年1月23日　Kwang-Yeong Shin (中央大学校)
Young-Mi Kim (延世大学校)
  - 2023年2月16日　Scott W. Allard (University of Washington)
Heather D. Hill (University of Washington)

グローバル化された市場経済での格差・諸課題への提言

令和４年度における活動実績・成果の概要

①ランチョン・ミーティングと社会的不平等に関する国際講演シリーズの成果として、（１）格差・不平等・公正研究について議論を深めることができ、（２）国内外の研究者ネットワークを拡張することができた。

②プロジェクト・メンバー個々人の研究も深化させることができた。たとえば佐藤嘉倫はAIの社会進出が社会的不平等や公正にどのような影響を及ぼすのかという研究テーマに取り組んでいる。既に2022年3月に佐藤嘉倫・稲葉陽二・藤原佳典（編著）『AIはどのように社会を変えるか』を東京大学出版会から刊行したが、この研究テーマをさらに振り下げている。

関連ホームページ
http://impact.bureau.tohoku.ac.jp/g4/